

令和5年12月25日（月）

1 開会

○司会 それでは、定刻が参りましたので、ただいまから令和5年度岡山市基本政策審議会を開催いたします。

まず、開会に先立ちまして、委員の交代についてご報告いたします。

前回の審議会より後、祇園茂様、原田育秀様が退任されまして、それぞれご後任として、小野大作様、山本総一様が新たに委員にご就任されております。お二人から一言、ご挨拶をいただきたいと思っております。

まず、小野委員様からお願いいたします。

○小野委員 おはようございます。ただいまご紹介いただきました小野大作でございます。

私は、岡山市の連合町内会の副会長ということの立場で参加させていただきました。連合町内会というのは、96小学校区の中に96人の連合町内会長がおられまして、ですからその一員なのですが、その96の小学校区の連合町内会の中から10人、常任理事というのがおりまして、そしてその中に会長が1人、それから副会長が4人おります。そういった格好で今運営させていただいております。ひとつ今日はよろしく願いたします。

○司会 ありがとうございます。それでは、山本委員様、お願いいたします。

○山本委員 おはようございます。山本でございます。よろしく願いたします。

委員のメンバーを見ますとそうそうたる顔ぶれで、ちょっと緊張しているのですが、しっかりと民間の立場からご意見を言うことができばと思っておりますので、どうぞよろしく願いたします。

2 市長あいさつ

○司会 ありがとうございます。

それでは、開会に当たりまして、大森市長からご挨拶を申し上げます。

○大森市長 皆さん、おはようございます。岡山市長の大森でございます。

今日は、基本政策審議会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

岡山市もコロナが5類に変更になってから随分社会活動が元に戻ってきております。しかしながら、物価高騰もあり低所得者また事業者の皆さんが大変な状況になっているということで、対応をきちっとさせていただいているところでもあります。また、ハレノワができ、岡山城のリニューアル、また路面電車の駅前乗り入れの本格化などもあって、街が動いているというようなことも言われているところではありますが、課題も多くあります。今日、様々な話題を提供させていただいております。この案件に限らず、ご指摘をいただければと思います。

最後に、コロナは収まってはいるのですけれども、インフルエンザが大変で学級閉鎖も多く出ております。皆さん方、気をつけていただければと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

本日のご欠席者が、赤木里香子様、齋藤信也様、高谷昌宏様、田中共子様の方のご都合によりご欠席でございます。基本政策審議会設置条例第6条第2項の定足数、委員の過半数のご出席をいただいておりますので、この会は成立しております。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により会長が議長を務めることとなっておりますので、ここからは議事運営は阿部会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

3 協議

○阿部会長 皆さん、おはようございます。

会長を仰せつかっております、環太平洋大学の阿部でございます。本日も活発なご審議をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に沿って議事を進めさせていただきます。

まず、会議の公開と傍聴の取扱いにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○司会 はい。本日、傍聴希望の方が現時点で3名いらっしゃいます。特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴許可をいただければと思います。

○阿部会長 3名いらっしゃるということで、本日の審議につきまして特に支障になる事由はないと思われまますので、本会議は公開といたしまして傍聴を許可したいと思います。委員の皆様、ご意見いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○阿部会長 それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思います。

○司会 はい。それでは、傍聴の方に入ってください。ありがとうございます。

〔傍聴者入室〕

○阿部会長 それでは早速ですが、協議に入らせていただきます。

まず、1番目の議題でございます。岡山市の主要施策につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(1) 岡山市の主要施策について

○政策局長 はい。

それでは、私のほうから、お配りをしております資料3に基づきまして、市の主要施策についてご説明させていただきます。恐縮ですが、座って失礼いたします。

資料2ページをご覧ください。

最初に、物価高騰・新型コロナウイルス感染症対策についてでございます。

岡山市は令和元年度以降、市民の方、事業者の方に向けて総額で1,426億円余に上る予算を編成し、時宜に応じた対策を講じてきております。この11月補正予算でも、住民税非課税世帯等への給付金や市内事業者への省エネ機器更新補助金などの予算を計上したところでございます。今後も経済情勢などを見極めながら、必要な施策を的確に講じてまいりたいと考えております。

3ページをご覧ください。

新型コロナウイルスが5類に移行しまして、街にもにぎわいが戻ってきているという中で、具体的に人流がどうなっているかを分析した資料でございます。

岡山市の都心の10月、休日1日平均の滞在人口で見ますと、コロナ前、2019年を100とした場合に2023年は81.9ということで、8割程度まで回復をしてきているという状況でござ

ございます。

4ページをご覧ください。

市内経済の状況についてのご紹介です。

まず、資料左側ですが、実質の市内総生産を見ますと、データ比較の可能な平成23年から令和元年までの8年間で岡山市は8.4%上昇しております、指定都市の中で第5位の伸び率となっております。

次に、資料の右上ですが、民営の事業所数・従業者数を見ますと、平成28年から令和3年までの5年間でそれぞれ2.8%、3.5%上昇しております、全国平均を上回る伸び率となっております。

また、右下ですが、都心の路線価・地価を見ますと、平成30年から令和5年までの5年間でそれぞれ上昇をしているところですが、特に岡山市で最高路線価となっております市役所筋（本町）、高島屋のあたりですが、令和5年に前年比で9.3%上昇と、こちらは県庁所在都市の中で全国1位の上昇率となっております。

5ページからは、岡山市総合計画に掲げております3つの将来都市像に沿って、市の施策を紹介させていただきます。

5ページ目は、将来都市像Ⅰ、経済・交流都市のうち、産業振興施策についてでございます。

現在、起業・創業支援、拠点性を生かした企業立地の推進、地域の中小企業への支援の3つを柱に取組を進めております。特にコロナ禍や物価高騰、デジタル化などの様々な環境変化が起きている中で、これに対応すべく市内事業者の生産性向上や事業成長のための支援について、きめ細かく行っているところでございます。

次に、6ページをご覧ください。

都心のまちづくりについてでございます。

昨年度リニューアルオープンした岡山城、そして今年9月にグランドオープンした岡山芸術創造劇場ハレノワなどの魅力ある拠点づくりを進めるとともに、ハレまち通りの1車線化や岡山駅前広場への路面電車の乗り入れなど、こうした拠点をつないで回遊性を向上させる歩行空間や路面電車の整備に取り組んでおります。また、まちなかに市内外から来ていただけるよう、アクセスしやすい公共交通を構築することとしております。

魅力ある拠点づくりという点で、資料右側中段にございますが、岡山城につきましては、リニューアル以降、1年間の入場者数が47万2,000人と過去最多となっております。

また、資料の7ページにお示しをしておりますが、岡山芸術創造劇場ハレノワにつきましては、9月に開館して以降、ハレノワのある表町3丁目、時計台周辺の休日の通行者数が開館前の8月と比べて、おおむね2、3倍に増加をしているという状況でございます。

8ページをご覧ください。

地域の振興についてでございます。

地域の課題解決や地域資源を活用した魅力ある地域づくりに向けて、ハード・ソフト両面から取組を進めております。経済・産業、歴史・文化、生活の3つの分野で、農業振興やコミュニティビジネスの支援、造山古墳群や高松城址公園などの歴史観光資源の魅力の向上、生活交通の導入など、様々な取組を進めております。

9ページをご覧ください。

公共交通についてでございます。

岡山市では将来にわたって利便性の高い公共交通を提供するため、事業者等と連携しながら地域公共交通再生の取組を進めているところでございます。こうした中で特に路線バスにつきましては、厳しい経営状況、運転手、車両の不足などでネットワーク維持が非常に厳しい状況となっております。そのため、現在、事業者、行政、市民等から成る地域公共交通網形成協議会を開催いたしまして、資料にお示ししております地域公共交通計画素案について議論を行っているところでございます。

素案の中では、資料の中段にございますが、施策の方向性として持続可能な公共交通ネットワークの構築などの3点を位置づけまして、資料の下段にございますが、具体施策として路線の維持・充実などの6点を実施していくこととしております。引き続き協議会で議論をして計画を取りまとめた上で、次年度から具体の施策を実施することとしております。

10ページをご覧ください。

将来都市像Ⅱ、子育て・教育都市のうち、子ども・子育て支援の充実についてです。

まず、資料の左側が子ども医療費の助成についてでございます。子育て世帯の負担軽減のため、令和6年1月分からこちらを拡充することとしておりまして、通院については小学生は自己負担1割から無料に、中高生は自己負担3割から1割に軽減することとしております。また、入院については中学生まで無料としていたところを高校生まで無料とし、これについては先行して今年10月分から実施をしているところでございます。

次に、右側、保育の待機児童対策についてですが、保育所の整備や保育士の処遇改善に

取り組んできた結果、グラフのとおり、待機児童は昨年度おおむね解消をしております。今後も量的に安定した保育環境を保ちつつ、医療的ケア児や重度障害児の受入れなど、質の向上に努めていくこととしております。

11ページをご覧ください。

放課後児童クラブについてでございます。

資料左側にごございますとおり、保育環境の整備、女性の就労継続とともに放課後児童クラブの利用ニーズが高まっておりまして、小学校の児童数が減少する中でも、放課後児童クラブの在籍児童数、待機児童数は、ともに増加をしております。また、今後も放課後児童クラブの申請者数の増加が見込まれる状況にありますので、資料右側にお示ししておりますが、特別教室のタイムシェアや専門施設の建設によって施設を確保するとともに、各運営主体と協力しながら支援員等の確保を積極的に進めまして、令和7年度には放課後児童クラブにおける待機児童ゼロを目指すこととしております。

12ページをご覧ください。

教育分野についてでございます。

第2期岡山市教育大綱に掲げる、自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子どもの育成を目指しまして、魅力ある授業づくりや問題行動等の防止・解決に向けた総合支援に取り組んでおりまして、学力については令和元年度から継続して全国平均レベル以上を達成しております。今後も資料左側にありますとおり、体験活動や家庭教育の支援の充実など子供をやる気の醸成、そして資料右側にありますが、教職員の働き方改革、若手教育の育成など質の高い公教育に向けた教育環境の充実に取り組むこととしております。

13ページをご覧ください。

将来都市像Ⅲ、健康福祉・環境都市のうちの防災・減災対策についてでございます。

平成30年7月の西日本豪雨で約2,230戸に床上浸水の被害が生じたことを踏まえまして、今後同じ雨量があっても、こうした被害を生じさせないことを目標に浸水対策を進めております。今年6月の今保・白石ポンプ場の暫定供用や県による砂川改修によって、令和6年6月に目標の約7割、1,590戸について床上浸水が解消する見込みとなっております。

また、ソフト対策として自主防災組織の結成促進に取り組みまして、組織率は西日本豪雨直後の6割台から9割台の半ばまで大幅に上昇しております。

14ページをご覧ください。

地球温暖化対策についてです。

令和3年2月に岡山連携中枢都市圏におきまして2050年に二酸化炭素の実質排出ゼロを目指すというゼロカーボンシティ宣言を行っておりまして、これに基づき太陽光発電設備等の共同購入事業やゼロエネルギーハウスの普及啓発事業などに取り組んでおります。また、さらなるCO₂削減に向けまして、令和6年3月からプラスチックの分別回収を実施するほか、公共施設の電力に再生可能エネルギーを活用するため、現在整備中の可燃ごみ広域処理施設で発電した電力を公共施設に自己託送することを検討しております。

これ以降の資料は参考としておつけしているものでございます。1つは岡山市の第6次総合計画（後期中期計画）に基づく、令和4年度の実績状況をまとめたものです。そしてもう一つは、昨年度もご紹介しておりますが、指定都市20市で構成する指定都市市長会において実現を目指しております特別自治市制度についての資料でございます。

また、資料3とは別に参考資料としまして、「戦国 宇喜多家」を主人公とした大河ドラマ実現に向けての表紙になっている資料をおつけしております。こちら、現在、官民連携をしまして「戦国 宇喜多家を顕彰する会」を立ち上げまして、「戦国 宇喜多家」の大河ドラマ化を目指しているところでございます。先日、会長の大森市長、市議会の田口議長、岡山商工会議所の松田会頭、武久瀬戸内市長が東京に出向いてNHKに対して要望活動を行ったときのこちらは資料でございます。ぜひご覧をいただきまして応援などしていただければと思います。

以上、大変駆け足で恐縮ですが、説明は以上でございます。

○阿部会長 どうもありがとうございました。

それでは、岡山市の主要施策につきまして、各委員の皆様方からご意見をいただきたいと思っております。毎回でございますけれども、各委員に確実にご意見を伺うために順番に伺うような形にしておりますけれども、それでよろしゅうございますか。

それではまず、岡山委員からお願いしたいと思います。

○岡山委員 交通関係で今いろいろ手を打たれていてバスのこととかやられておりますが、本当に公共交通が今崩壊の危機にあると思っていて、その中でいろんなことをされようとしているのは本当にいいことかなと思っております。特に今上限200円バスをやっている

ますが、これはよその地域で成功例もあるので、これによって公共交通の底上げ、それから周辺部対策として周辺部への施策が何か少ないみたいなことをすぐ言われたりしますが、そういう非常にいい周辺部対策になるのではないかと考えています。今回の結果を踏まえて何か継続していただけるようなことがあったらいいなと考えております。

それから、同じようなことを言うと、今JRも非常に路線の減便とか路線を縮小して赤穂線なんかも手前までしか行かないとか、そんなことになっております。もうサービス低下がかなり甚だしいと思います。そこで、今までJRに任せてきた面が多いかと思いますが、運行についても岡山市なり、よその市町村と連携して、もうちょっと改善するような取組に持っていくことができないかなと思います。法定協議会でやるのがいいのでしょうか。法定協議会にほとんどJRが来られても発言がないのですかね。ないですよ。JRのことで絡めて、そういう施策を打っていくというのもあったほうがいいのかと考えております。

それから、路面電車の駅前乗り入れを今やっていますが、基本的に将来ということを考えたら、今環状化のところは予定ありますが、岡南方面といいますか、30号線より南の方への延伸的なこと、それから大元駅から問屋町の方までの南西部への延伸みたいなものも検討していただけたらと思います。それで、公共交通の分担率のアップを政策目標に掲げて、そのことをやっていかないと、なかなかもうこれから本当にこの前も人口が減るとい話が出ていましたけど、その中で何とか公共交通を維持しないと都市の魅力もなくなってくると思われまますので、そこを何とか支えるようなことができないかなと思います。

それから、西川緑道公園沿いについて「ホコテン！」を年に数回やるとか、いろんな施策を打ってこられましたけど、「ホコテン！」をやるのに一々交通規制を毎回毎回やると非常に手間とお金がかかると思います。できましたら、交通標識1つに日曜日の午後は通行を歩行者専用とか、そういう簡単にできるようなところまで持っていったらいいのかなと思います。それも、ほかの都市でもそういう交通規制だけでできているというか、慣れればできるという、沖縄の国際通りとか東京の神楽坂とか、そんなところで行われているかと思っておりますけど、そのようにできたらいいかなと思います。

○阿部会長 岡山さんのほうから幾つか疑問も出ておったようでございますので、もし可能でしたら事務局のほうからご発言をお願いできますか、交通の件。

はい、お願いいたします。

○都市整備局次長 都市整備局の次長でございます。

先ほどいただきましたご意見につきまして、少しでもコメントさせていただきます。

最初に、公共交通の関係でございます。公共交通、非常に厳しい経営状況であるということ、あるいは利用がコロナの前の9割前後というところで停滞していると、こういった状況でございます。一方で、運転士であるとか車両の数に限界がある、課題があるということございまして、これらの適切な配分が求められているという状況になっているところでございます。現在、各事業者さんと一緒になって協議会をつくって議論しているところでございます。そういった取組を本日の資料の中でも少しお示しさせていただいているところでございまして、それが資料では9ページでございます。

この中で特に私どもが取り組んでいる新しいものとしたしましては、1番目の持続可能な公共交通、ネットワークの構築で階層化と書いているところがございます。こちらにつきましては、今までバスで走っていたところは維持して、残りをバスが走らないところは生活交通ということで地域と一緒にやっていたのですが、これを階層化しまして、支線というものをつくりまして、乗り換えて小さいバスで支線をつくって地域の足を維持していこうと取り組もうとしているところでございます。こちらにつきまして市も積極的に関与して、費用についても市のほうで応分の負担をしていきたいと考えているところでございます。これらの計画が事業者の皆さんと一緒に合意が前提となっております。現在、合意に向けて協議を進めている段階でございます。

それから、路面電車の乗り入れでございます。いろいろございましたが、令和8年度末には乗り入れできるように鋭意取り組んでいるところでございます。

次に、いただきました意見の中で西川緑道公園のイベント等でございます。現在も様々な歩行者天国化などを通じていろんなイベントをさせていただいているところでございますが、今のままでいいとは思っておりませんので、今後も新しいアイデア、新しい取組、地域の方々と一緒になって相談しながら今後も展開していきたいと考えております。

以上でございます。

○阿部会長 よろしいですか。ありがとうございます。

交通の問題は私も深く関わっておりまして、今までもう30年近く議論をして、いろいろと進めてきたものでありまして、大森市長の下でようやく具体化してきたのかなというところでありますけれども、それゆえに、ぜひこれを都心それから岡山市の活性化に着実に

つなげていくようお願いしたいと思います。

それでは次に小野委員さん、お願いできますでしょうか。

○小野委員 小野でございます。

ハレノワ、あれ、この間、私、実はジャズがあったので初めて聴きに行ったのですが、あれ、すごくいいですね、音響が。もうびっくりしました。大阪のフェスティバルホールと同じぐらいになると。うちの隣にあそこの工事屋に勤めている人がいるのですが、あれはもう大阪のものと一緒にものをつくって、すごくいいのをつくっているからという話をしていましたけど、ただ若干収容人数が少ないというのがちょっと難点かなと思いますけど、音響はもう本当に抜群にいいですね。シンフォニーなんかより、はるかにいい。褒めておきます。

それから、交通についてですが、路面電車の駅の乗り入れはともかく、いっそのこと城下のとこまで、城下の旧市民会館のあたりまで坂を上って、あそこのあたりに止めてもらったらいいのではないかなとは思っています。観光客のために利便性を図るという意味では、あそこの上を上っていくのもありかなと。私が子供の頃というのは番町線というのがありましたよね。弓之町のところへ止まっていた経緯があったと思うのですが、それはもう廃止になってしまったものですから、今さらあっちまで持っていくのは無理でしょうから、できればあそこの市民会館の前のあたりぐらいにつけてもらったらいいのではないかなと思っています。

それから、先般も商工会議所の方といろいろと話をしていたのですが、交通については内環状、外環状ができてきて、特にそのうち今一番問題になっているのが国道2号線の妹尾のちょっと手前の大福、あのあたりがものすごく混雑をしている。これは計画当初からあったそうなのですが、高架橋化にするという、上を走らせるということをしていないと、今さら今走っているところを潰してしまうと、今度はその道路沿いにお店ができた、いろんな店舗やいろんなものができてますので、そうなってくると、そのあたりが、じゃあどうしてくれるんだみたいなこともあるだろうと思うのですが、いずれにしても交通の利便性からいったら、あれはもう早く高架橋化してしまうというのが手だろうと思っています。この渋滞ってものすごく困るというのは、いろんなところでも話が出ていました。

それから、子供の医療費、これは私がこの場で言うのも何なのですが、私は結構年な

のですが、小さい子供が実はおりまして、今3歳、6歳、8歳なのですが、そうなると確かに子供の医療費というのは、もうばかにならないぐらいかかってくるのですね。今小学生の子は1割の負担で済んでいますけど、確かにこの医療というのは、いろんなところで弊害ができて、倉敷なんかでも既にだいたい前からもう子供の医療費については無償化している。よその県でも無償化しているところがありますから、たくさん子供を産んでもらうためには、この医療費の無償化というのは、これは必須のことで、今は幸いなことに岡山市もこの間新聞に出ていたし、先ほど市長のほうからもお話がありましたように、よそから財源を引っ張ってきて、あれ、消費税でしたかね。何か消費税のあれでたくさん増えるから、それをもってその医療費に回せることができるのだということを言われていましたけど、これは大賛成です。これも既に実現をされるようですから、拍手を送りたいと思っています。

それから、いつもこれは今まで保育園の待機児童が問題になっていたのですが、今、保育園については1人しかいないということになって、保育園の整備については、もうほぼ済んだと思いますが、放課後児童クラブ、これは先ほども少子化に伴って反比例してこれが増えていくのは、この放課後児童クラブの数なのですが、これを何とかして欲しいというのは各連長さんのほうから小学校区でいろんなことが上がっています。ぜひ放課後児童クラブの整備ということをしていただきたいと、そう思っております。

それから最後に、造山古墳のことでいろいろとされているのですが、造山古墳もいいのですが、これは一度ぜひ調べてほしいのは三野公園。三野公園というのは実は古墳でないということで皆さんから認知されていないのですが、グーグルマップで上から見たら、まるで前方後円墳なのですね。これについては、いろいろと議論はあろうかと思いますが、できればここを一度調査していただいて、近い将来ここに穴を空けてトンネルができて、そこを道路にするという計画が今進んでいます。これも随分前から、もう30年も40年も前から、その道路計画というのは県で進んでいるはずなのですが、今、岡山市で今回されるようなのですが、これも同時にそういったことの調査もしていただけたらなと思っています。岡山というのは、もともと吉備王国の中心の場ですから、これは発見されたとする、岡山でも、岡山どころか全国で最大級の前方後円墳だろうと思いますので、一度何か調査をされたらどうだろうかと、そう思っております。

以上、終わります。

○阿部会長 ありがとうございます。

市民の立場から幾つか具体的なご提案もいただきました。もし事務局からご発言いただくことがございましたらお願いいたします。

いかがですか。

○政策局長 では、幾つかまとめてということで、よろしいですかね。

○阿部会長 はい。了解しました。

それでは次に、杉山委員からお願いしたいと思います。お願いいたします。

○杉山副会長 私は最後のほうになるのかと思っていたのですが、せっかくの機会です。少しご質問させていただけたらと思います。

4 ページで岡山市のGDPの伸び率が8.4%で、日本の指定都市間で5位だということなのですが、この8.4のブレイクダウンを教えてくださいませんか。一体何が伸びているのかというのを知りたいと思います。

それから2番目に、先ほども古墳の話が出ておりましたけれども、私は千足古墳を復活されて、とてもすばらしい取組だと思っています。あれだけのものが見られるというのは全国でもなくて、しかもその千足古墳の石棺が九州の阿蘇から持ってきている。2トンもあるものをどうやって持ってきたのかということで、うちの学生たちには、どうやってこれを持ってこられるのかということを考えろということずっと話をしておりまして、本当にすばらしい取組だと思っています。要はほかの地区にない、岡山のこの地にある、そういう資産を上手に活用して魅力あるものにつくり変えているということで、同時に私たちも地域の歴史や文化を掘り起こさないといけないということなのだろうと思っています。

それから3番目に、教育都市で本当に大森市長さんご苦労されまして待機児童をほぼゼロにされたというのは、これは本当にすばらしい成果だと思っているのですが、実は高校を卒業して大学に行くという段階で、コロナが終わってもものすごい勢いで地方の都市からの18歳が都会に流れているのですね。やっぱり一旦都会に出るとなかなか戻ってこない。ぜひ本学もひっくるめて、ぜひ協力させていただいて、18歳人口をぜひ岡山にとどめるような、そういう政策を考えていただけると、とてもありがたいなと思っています。

通常、岡山市のデータで見ると18歳人口って上がるのですが、下手すると下がるぐらい急激に地方都市、特に中四国の地方都市は大都会に取られているというデータが出ていますので、この3月末のデータをしっかり見て、そういう施策を打っていくことを考えていただけたらいいのではないかなと思っております。

あとは、魅力ある教員の確保ということで、DX関係の方とか新しい方をいろんな形で採用されているということは認識しているのですが、特に今みたいなChatGPTとか生成AIが大きく変化するときには新しい人材がどうしても必要です。通常の教員免許とか、そういうことにこだわらないで、何とかその優秀な方たちを採用するようなことをぜひ継続してお願いできればと思います。

私からは以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは次に、西田委員さんからご意見いただきまして、このあたりで事務局のほうからご発言をお願いしたいと思います。

○西田委員 失礼いたします。今、岡山駅前、そこがタクシーの専用出入口ができ、今までだったら一般車も普通のタクシーもバスもという感じですごく混雑していたのですが、少し何かすっきりしたような感じを受けますので、これからも岡山の活性化のためによりしくお願いしたいと思います。そして、ももちやり、あれが至るところに自転車がたくさん置かれているのですが、1年間に大体どのぐらいの人が利用されているか教えていただけたら助かります。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、事務局のほうからお願いできますか。

○政策局長 はい。まず、政策局からお答えさせていただきます。

GDP 8.4%の内訳につきましては、今調べてもらっていますので、もし間に合えば、この会議の中でご紹介をさせていただきまして、間に合わなければ、また後ほどということにさせていただきます。

そして、18歳の大学進学時に恐らく東京などに地方から流れているというところにつきましても、こちらも最新のデータも確認をしまして各局と対策などを検討させていただきたいと思います。

以上です。

○大森市長 阿部会長。

○阿部会長 はい。

○大森市長 私から、じゃあ一言。

○阿部会長 はい、どうぞ。よろしく願いいたします。

○大森市長 まず、岡山さんが話をされた公共交通、岡山さんずっと公共交通の議論をやっていたで、本当にありがたいなと思っています。阿部先生と一緒に、ようやく動きが出てきて、最大の問題だった岡山市内の9社、70万都市で9社のバスが動いているというところは日本中なかったわけでありましてけれども、まだはっきりとはしていませんけど、2月には一定の結論は出るのかなと思っているところであります。

ただ、岡山さんが最初におっしゃった200円を今、岡山市発着のバスに全て適用してやっていますよね。あれは確かに京都の北の京丹後市でやって成功したというのを我々も見ているのでありますが、これは交付金があるからできるのですよ。本当に市税をこういうようにつぎ込んでいくのがいいかどうか。岡山市から勝山までの経費を全部市民の税金でやるのがいいかどうかという議論には必ずなってくる。これからも一定の助成をしていくときに、市外のをどういう負担をしていくのかというのが私は最大の問題、これから出てくると思うのです。

山陽新聞としても、ここは委員としてということなのかもしれませんが、いろいろと我々も議論させてもらって一定の方向性を提起していくという必要があるのだろうなと思っています。一定の光明は見えてはきたものの最終的な姿はまだできてない状況でありますので、交通の阿部会長とも相談しながらやっていかなきゃいけないと思いますが、これは岡山の中心街を幾ら人が回遊できるようにしたとしても、それを享受できる人が広

がらないと意味がない。したがって、公共交通というのは、すごく重要だと私は思っております。また、ご協力をいただければと思います。

それから、杉山先生がおっしゃった千足古墳の話、本当にありがとうございます、そう言っていただければ。ちなみに、でも千足古墳の石障は天草なのですね。重要なところって、なぜ天草の石が我々のところに来ているのかというところで、運んだのは船で運んだ。天草だから船で運びやすいということで船で運んだことは間違いないのですが、この流通がままたまらない、そういう古代、古墳時代において、5世紀の全般において、なぜ天草の石があそこにあるのか、私はそれがすごく重要だと思っております。今日は教育長も来ていますが、教育委員会の学芸員と様々な証拠調べをやりまして、そうやってみると熊本に吉備の人間が国造で送られているのですね。

それは任命権があったかどうかは、はっきりはしないのですけれども、一定の地域に吉備の人間が行っているということだけは間違いない。国造ですから当然その地域を管轄する倭の国のトップであるわけでありまして、そこからどうも貢ぎ物として贈られてきているということではないかという結論までは至っています。したがって、吉備の影響力が非常に大きかった。この証左が千足古墳の天草の石になっているのだらうと思っております。

そういう意味からいくと、魏志倭人伝の中に出てきている投馬国というのが、大和が7,000に対して投馬国が5,000の、それは3世紀ですけれども、それ以降、投馬国、いわゆる吉備がどんどん力をつけて、ほぼ5世紀の全般というのは大和と匹敵するぐらいの力を持っていたのではないかと。したがって、陪塚にも、そういう天草の石があり、もちろん造山古墳にも熊本の石があるわけなのですが、これはこれから5年かけて発掘しますので、本当に大きくこの岡山の吉備という国が脱皮していく、今までとは全く違った評価になっていく可能性というのは、私は非常に高いかなというように思っております。学生の方々にもそういうお話をさせていただいて、古代の吉備をぜひ大きく発信していただければと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、副市長さん、お願いいたします。

○竹中副市長 私の担当業務の中の実は放課後児童クラブについて説明の中でもさせていただきます、先ほど小野委員からもお話がありました。放課後児童クラブ、このグラフ

を見て、グラフを11ページに掲載しておりますとおり、実は受入枠は毎年かなり増やしているのですが、一方でそれを上回るニーズの増の中で待機児童が生じている状況でございます。この要因としては大きくは2つあると思っております、1つは世の中一般として夫婦共働き、また家でおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいるということがない中でニーズが増えてきているということ、またあわせて本市特有的な事情として、かなり保育の充実を図ってきた中で、保育で預けるお子さんが増えた。結果として、もちろん小学校に上がってもそのまま預けるというニーズが続くこととなりますので、本市においてかなりニーズが大きく増えている、こういう状況でございます。

おっしゃっていただいたとおり、非常にここは大事な点だと思っております。小学校に上がったところで結果として預けることができずに仕事を辞めるということも、いろんな意味でマイナスでございますし、またお子さんの健やかな発達という意味でも、しっかりとした環境を準備していくということが大事だと思っております、教育委員会とも相談しながら施設の確保を進めております。ただあわせて、なかなか一方で人手不足の中で、そこで働く方も確保しなければいけないところで苦労しているということもございまして、ここはいろんな形で考えていきたいと思っておりますか、いろいろ地域でもこういうところで募集があるよというのを知っていただくのも大事かと思っております、町内会のほうにもご相談しながらご協力を求めるところもあるかと思っておりますので、そのような場合にまたぜひお考えいただければと思います。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

はい、お願いいたします。

○教育長 教育委員会です。

1点だけ、12ページにあります、魅力ある教員の確保事業についてですが、そこに書かれているように、様々な取組を通しまして他県の大学とか大学推薦、いろんなアピールをしていって今年度、全国であまりなかったのですが、志願者が過去2番目に多かったという状況が生まれています。そこに書かれている処遇改善などもありまして、いい方をたくさん採用しようということで、岡山に帰ってくる方、岡山の大学に来ている他県の方もいい方は一生懸命採用していこうと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

以上です。

○政策局長 先ほどのGDPの関係でございますが、分野別で少しご紹介をしますと、平成23年から令和元年で一番高かったのは建設業が32.6%、金融保険業が23.2%、保健衛生・社会事業分野が23.1%というあたりが特に高い伸び率ということでございます。個別のここが伸びている分析というのは、もう少ししないといけないところではあります、建設業なんかは、いろいろと街が動いている中での伸び率かなと思っております。

以上でございます。

○都市整備局次長 都市整備局次長でございます。

ももちやりのお話をいただきました。ももちやりにつきましては、現在ポートという自転車を置いているところが35か所で、全部で自転車が442台ご用意させていただいているところでございます。これが回転、1日当たり何回ぐらい使われているかといいますと、令和5年度で、今年度で3.3回、あるいは令和4年度では3.1回、大体1つの自転車が1日に3回ちょっと利用されていると。コロナのときには3回を切っていたのですけれど、そういう状況でございます。利用回数全体でいきますと、昨年度でいけば50万回とか、そういう状況になっているところでございます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○阿部会長 ありがとうございます。

ちょっと時間がタイトになってきておりますので、このあたりで、まず教育についてご意見をいただいて、それから次に防災、それから産業経済等につきまして、またご意見をいただきたいと思っております。

福島委員さん、お願いできますでしょうか。

○福島委員 失礼いたします。こちらの資料でも、全国学力・学習状況調査が全国平均レベルを令和元年度以来ずっと継続をしておられるということで、本当に教育委員会をはじめとして学校現場の先生方がご尽力くださっているなというのは痛切に感じております。学校現場、そのようなところでしっかりと学力をつけるということも大切なのですけれども、未就学の子供たち、0歳から5歳、このような子供たちにしっかりと学力ではないで

すが、発想力であるとか論理力であるとか、あるいは表現力、このような力をつけるためには絵本の読み聞かせが非常に効果があるということは研究などからでも様々なところから言われております。今、県立図書館が全国の貸出冊数が上位というか、トップに上がるようなことを、よくニュースで聞きますが、県立図書館のミッションというのはそもそも全国で発行されている図書の何%を所蔵するという、そちらのほうにどちらかというミッションがあって、利用されるような重複本というのはあまり置かない。

どちらかといえば、それが市町村立図書館のミッションであって、一般の市民の方々の利用に供するものをしっかりと置いていって貸出しというところが伸びていけばいいなと思っています。岡山市に住んでいる子供たちにもできるだけ絵本であるとか、今、認定絵本土という、読み聞かせの専門の方も、資格として文部科学省もそういった講習をしていますけれども、いらっしゃって、子供たちにそのような力をつけるということも、地域であったり家庭であったり、学校だけでなく、未就学の子供たちにそういう機会を与えるということも重要ではないかと思っております。

先ほどから、待機児童であるとか児童クラブ、これも本当に大切なことだと思いますけれども、量的な部分と、ある意味、質の部分で、そのような市町村立図書館の機能を発揮しつつ、強いて言えば、ちょっと極端かもしれませんが、幼稚園とか、こども園、そのようなところに巡回で本を提供していって、家庭にそれを貸出しして、家庭でも親子の触れ合いというものを通して読むとか、あるいはもちろん保育士さん等もそうですし、地域でも先ほどの専門家のような方に活躍をしていただきながら読み聞かせをしていただく、そのようなチャンスがぜひ増えていけばいいなと思っております。

そしてもう一つは、部活動の地域の移行です。文部科学省が3年後を一つのめどにしておられますけれども、これこそ教育大綱のキーワードには個性とか選択とか挑戦という言葉が掲げられていますけれども、今、中学校の部活動の現状を見ますと、少子化のあおりでチームプレー、たとえば9人、11人必要なところに部活の部員がそれだけ充足できないというような環境であったり、あるいは教員の働き方改革であったり、さらに、より上の競技力を目指したいという子供たち、中学校は必ずしも部活の専門の教員ではないので指導者によってもいろいろあるというところから、しっかり地域で子供たちのそういった部活の環境というようなものを今後どういうふうにするか、プロの方あるいは地域の指導員の方、学校の教員もそうだと思うのですけれども、そのようなことをしっかりと整備できいくことが、本当に子育て環境が充実している都市へとつながり、地域の活性化というか、

そこにつながっていくということをいろいろなもので見聞きしておりますので、今日はこの2点について、さらに充実させていただければなと思っております。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、後で事務局からご発言いただくことにしまして、続いて関連する分野で村中委員さん、お願いできますでしょうか。

○村中委員 私の主観的な意見かも知りませんが、岡山市政はスピード感と実行力が感じられ、施策に血が通っているようで元気が出ます。客観的な観点からも、同様のことが言えると思います。例えば、資料の22ページの29番の、岡山市に住み続けたいと考える市民のパーセンテージを見ると、令和4年で目標値85なので、数値的には横ばいですが、数値に表れない質的な施策が行われているように思います。

市外の公立幼稚園の育児相談の場で、岡山市から転居されたお母様が、岡山市では十分な療育が受けられていたのに、現在は思うような支援が受けられず困っている。発達支援センター等の様々な施設にコンタクトを取っても、空きがないので6か月待つて欲しいと言われ、6か月後にも空きがないということで途方に暮れている。岡山市と随分違うことに戸惑いを覚えており、転居して後悔しているとの話をお聞きし、岡山市の教育行政は充実していると感じております。それが1件です。

次に、放課後児童クラブに関して感じたことですが、資料11に放課後児童クラブ、令和7年度に向けた具体策が掲げられています。その下の括弧閉じの中に施設と支援員等、専用施設の建設が1点、その支援員等の確保が2点、目標になっております。両方ともこの方向で進めていただくことには異存はございませんが、それと同時並行して放課後児童クラブに入れたお子さんが全員喜んで利用しているかという、決してそうではないという現実もあるようです。

中には、クラブに馴染めない子どもさんも少なくなく、そういうことになるとお母さんが仕事をやめざるを得ず、ブランクの後に子どもが高学年になってから再就職を目指しても、元のキャリアに戻る可能性は高くないのが現状のようです。それは生涯収入の2億円の損失というデータもあるようで、かなり深刻な問題かと思えます。

もちろん放課後児童クラブに適応できるお子さんを積極的に受け入れる施策に力を入れ

ると同時に、そうでない子どもたちにも手を差し伸べる施策も必要ではないかと思えます。例えば、地域の空き家等を活用した小規模なクラブで、近隣の少数の子どもを受け入れ、支援スタッフは、まだまだ元気でパワーのある地域のシニアの皆様に活躍して頂くという方法もあるかと。通学路の見守りのボランティアの方々が生き生きとされている姿を拝見させていただくと、そういう方々がシフトを組んで、例えばかつて教員だった方は宿題を見たり、かつて保育士さんだった方が子どもの遊びを担当したり、子どものおやつを担当される方等、それぞれが適性を生かし、地域ぐるみで子どもの生活、健康、学習を等の成長を支えるというシステムがあれば、子どもも保護者も幸せです。少子化の今だからこそ、地域ぐるみでシニアの方々が少ない子どもを大切に育てて、将来その子どもたちが地域を支えていくという、良い意味での連鎖を形成することが大切ではないかと思えます。

17ページに高齢者のフレイルとか、認知症対策という項目がありますが、子ども達を育むという喜びや役割意識は、シニアの自己肯定感を向上させ、フレイルや孤立の予防にもつながるのではないかと思います。子どもと高齢者対応が、別々に議論されるのではなく、これからは総合的に考えていく必要があるのではないのでしょうか。

以上です。失礼いたしました。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、山下委員さん、お願いできますか、引き続いて。

○山下委員 はい。私のほうから、今、村中委員も言われたことなのですが、子ども食堂というのが全国的にも行われていると思うのですが、その子ども食堂の狙いとしては、1つは食べられない子供たちに食支援という形と、それからもう一つが地域とのつながりということを狙って行われているところがあると思います。学生の中にも子ども食堂の研究をしたりしている学生がいるのですが、その中で子ども食堂を地域で行うことによって、その地域の、例えば高齢者であるとか、そういう人たちとのつながり、横のつながりをつくっていくことによって、取り残さない子供たちといったような、そういう状況が生まれてくるのではないかと思います。岡山でも結構行われているのですが、あまりそういうアナウンスというのが、ばらばらに実は情報があって一元化されていないところもあるので、そういう情報も広報していくという必要があるのではない

かなということは今、村中委員のコメント聞いて思いました。

それから、私は待機児童が少なくなっていて減ってきているといった、そういうご努力であるとか、あるいはその量と質を両方に目配りした施策というものが行われているということをご大変評価できるなど思っております。一方で、不登校児の子供たちのサポート、それから不登校児を抱える家族のサポート、家庭のサポートといったようなことも両方必要なのではないかと思います。

特に12ページの家庭教育の支援というのがありまして、ここに「家庭教育力向上に向けた」という部分があるのですけれども、ここが家庭教育力というか、一生懸命されているご家庭ってたくさんあると思うのですけれども、逆に家庭の中で教育をすごく行う、今、例えば教育虐待なんていう言葉も出ていると思うのですけど、そちらの方向に進んでいく家庭に対するサポートというか、そういうところにいる子供たちのサポートも必要だし、逆に家庭教育ができていない家庭というのもあって、その格差というのが問題になっていると思います。特にリーフレットなどを作成したり、あるいは講演会とかを行ったりしても、そういうものに全く興味を持たない人たちがいるわけなので、そういう家庭に対してメリットが感じられるような、これを聞くといいことあるよといったような、そういうメリットが感じられるような広報が必要になってくる。興味を持たせる広報というのが必要になってくるのではないかと思います。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、少し分野が変わるのですが、ご意見、ご提言をまとめてお伺いしたいと思いますので、前野委員さん、お願いできますか。

○前野委員 13ページの防災面でコメントさせていただきたいと思います。

平成30年以降、内水氾濫を防ぐという意味でポンプとか、そういったものを設置されてきて、非常に効果が出ているのではないかと考えています。引き続きぜひ来年度以降、ポンプの整備なども非常に重要ですので進めていただけたらと思っております。

そういった中で今年すごく印象的だったのは、県北の鏡野町で24時間で500ミリを超えるような、とんでもない大雨が岡山県下でも降ったのですね。そこまで行かないにしても、もう一つ印象的だったのは、秋田市街地で市内を流れる太平川というのが氾濫して市

街地が大規模な浸水をしました。そのときの秋田の降雨量が24時間で200ミリから多いところで300ミリ程度でしたので、岡山市街地、この岡山市、吉備高原や南のほうで、そういった大雨が降る可能性が温暖化の影響もありますので、十分にあります。そうしますと、岡山市街地で置き換えれば、砂川であったりとか笹ヶ瀬川が氾濫するという可能性も十分にありますので、ポンプを設置して、すごく安全になりましたと、浸水も解消されますよというのは、これはこれで非常に結構なことだと思うのですが、ソフト的な対策で、そういった大雨が降ったときの避難訓練であるとか、ハザードマップを配布するだけじゃなくて周知してタイムラインにつなげていくとか、そういった施策をぜひ積極的に進めていただけたらと思っております。

それから、ちょっと変わるかもしれませんが、細かい希望といいますか、ありまして、例えば人命を守る施策の一つとして、今年度だったと思うのですが、新見市で自転車のヘルメットを市民が購入するのを応援しているということを新聞報道で見ました。実は私は岡山大学におりまして、大学の周辺でも自転車同士がぶつかったりして大けがをしたりとか、そういった事例が今年度何件か見られましたので、一方でヘルメットをかぶるのが努力義務化と言いながら、市内を見ますとヘルメットをかぶっていない方々も非常に多いですので、ぜひ予算の関係もあろうとは思いますが、人命を守る施策として、そういった自転車用のヘルメットを購入の際に補助するとか、そういったこともご検討いただけたらと思いました。

それからもう一つ、これも細かいことなのですが、岡山のにぎわいや活力を象徴するようなイベントとして、岡山市でも花火大会をやってこられたのですが、ここ数年、ガードマンが集まれないとかコロナとか、いろいろなことがありまして中止になってきたわけです。ただ、全国的に見ますと、多くの自治体で復活されているところもあります。もちろんいろんなハードルが高いのは分かるのですが、やはり岡山のにぎわいであったりとか活力を象徴するようなイベントはぜひ復活するようなことでお考えいただけたらありがたいなと思っております。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、不手際で大分時間が厳しくなっておりますので、申し訳ございませんけど、山本委員さん、お願いできますでしょうか。

○山本委員 私も聞きたいなと思っていましたが、今までのやり取りで分かってきましたので、感想というか、お願いみたいなことになるのですが、まず最初は杉山さん言われたように、4ページに経済関連の数字を載せていただいているのですが、技術的な問題になるかもしれないのですが、いかんせん数字が古過ぎるのかなという、2019年は、ほぼ6年前の数字になるので、今どうなのかなと思ったのが1つです。あと、言われたように、中身で何が、岡山が強くて弱いのかというところが分かれば、もう少し絞り込んだ政策につながるのかなというのが感想です。

それからもう一点は、もうまさに部活動の話があったのですが、私もちょうど京山中学が男女とも何か全国チャンピオンになったりして、あれは自分たちが教えているのか、どこかに頼んでいるのか、どちらなのかなと思ったのですが、質の高い教育という意味では、先生のすごい精神的、肉体的に健全な姿でないと質の高い教育ができないというふうに思っていて、その部活動というのは今の状態ではよくないのかなというふうに思っています。国の支援もあって、総合型の地域スポーツクラブになるのか、そういうのを目指して、これはもう地公体だけではなくて、民間とか大学さん、学校の協力の下でということになるのだと思うのですが、そういった姿になると、先生の負担が少なくなるというだけではなくて、そこに保護者の方であったり高齢の方がそのスポーツのクラブに参加するようになると健康になって介護の問題も解決されるといったように、1つのテーマでこれをしましうではなく、幾つかの分野に重なっているような施策が多分あると思うので、縦割りではなく、しっかりと一緒にみんなで考えましょうという動きになればいいのかなと感じています。

あと最後になるのですが、本当に岡山市さんは先ほどあったようにスピード感があって、いろんなことをやられているのですが、いかんせん何か市民の方がそんなに知らないのではないかと思っていて、発信力という点で、今うちの高校生の子供も新聞とか、メディアの方がいらっしゃるので、あれなのですが、テレビとか新聞はあまり見ないということで、本当にインフルエンサーであったりインスタであったり、そういったところでどんどん若い人を使って施策を広げていくというのを一緒にやっていければと感じました。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、事務局のほうからまとめてということでございましたので、よろしく願いいたします。

○政策局長 それでは最初に、最後、山本委員からありましたデータの話を少しさせていただきます。

市内総生産が平成23年から令和元年でちょっと古いのではないかということでしたが、この市内総生産のデータは今これが最新ということでご理解いただければと思います。その上で、ここからのさらなる深堀分析というところは何ができるのかということも少し考えてみたいと思っております。

以上です。

○阿部会長 あと、教育、子育ての関係、よろしゅうございますか。

はい。

○市民生活局長 市民生活局長です。

子供の成長に親子の読み聞かせが大切、それから有効ではないかというお話をいただきました。市では愛育委員さんが「こんにちは赤ちゃん事業」ということで本をお届けする事業はさせていただいております。少しご紹介させていただくと、10月31日に岡山市はユネスコの創造都市ネットワークの文学分野での国内初の登録がなされております。本を気軽に親子、それから大人も子供もみんなが楽しめる環境というのがすごく大切だなと思っておりますので、民間の出版社それから販売、学校関係者、いろんな方とご相談しながら、より環境の充実に努めていきたいと考えております。

続けて部活動の地域移行、こちらは教育委員会さんと一緒にさせていただいている事業です。もうおっしゃられるとおり、活動の維持継続、これが1つ、それから先生方の負担軽減、あとそれがまちづくりに対しての影響というのもきつと決して小さなものではないと考えておりますが、今モデル事業を今年から始めたところですけれど、現場それから地域の理解が大切だと思っておりますので、丁寧に説明をしていく、まずここから取り組んでいるところでございます。

それからもう一つ、ヘルメットのお話をいただきました。令和5年4月から努力義務化

ということで、こういった施策が効果的なのかというのは、これは今我々としてもアンケート等々で研究中でございますので、いろいろ考えさせていただきたいと思います。

以上です。

○教育長 家庭教育のサポートのところで周知が工夫が要るのではないかというご意見をいただきました。様々周知をしておるのですが、あと今年度、市の公式LINEを活用しまして保護者が欠席連絡を学校にラインでできるようにしました。その逆に、学校からLINEがつながっている保護者の方々にいろんな文書や周知ができるようになりましたので、できるだけそういう皆さんがつながっているラインを活用しまして周知につなげてまいりたいと思います。

それから、ちなみに京山中は再任用教諭が頑張って指導しておりますので、いい結果が生まれたと思っております。

以上です。

○保健福祉局長 保健福祉局長です。

認知症対策のところでご意見をいただきました。おっしゃいますように、元気な高齢者の方々のマンパワーをどういうふうに市の施策と連携させるかということだと思えます。フレイルということで取り組んでございますけども、フィジカルなことだけではなくて、社会参加ということも非常に重要な切り口だと我々も思っております。

そうした中で、実際、今、地域の元気な高齢者の方々は町内会長をはじめ、例えば民生委員でありますとか愛育委員さんでありますとか保護司でありますとか、いろんなお役目を担ってはいいただいているのですけれども、他の岡山市の施策と、こういった連携ができるのかということについては、可能性を含めて、ほかの事業局と研究してみたいと考えております。

以上です。

○岡山っ子育て局長 岡山っ子育て局長でございます。

村中委員さんからは小規模な放課後児童クラブをしてはどうか、そして山下委員さんから子ども食堂のご案内があったかと思えます。この2点についてご説明をいたします。

地域の方が大きな保育園とか児童クラブ以外の子育て支援を行っていただいたり、ある

いは子ども食堂をはじめとして、子供の居場所づくりを行っていただいている事例がございます。これにつきましては、子育て広場などの運営補助を出すとともに、子供の居場所については立ち上げの支援の補助を行っております、これによって今子ども食堂である生活支援、それから子供たちが集まって行う学習支援、それから様々な自由なことができるフリースペースなども運営されているところでございます。これはもちろん進めてまいりつもりでございますが、結局どこでやっているのか分からないというところも課題だと思っております。これについては、発信力、広報を高めていくとともに、子育てアプリなども導入をいたしておりますので、様々な手法を使いながら皆さんにお知らせをしていきたいと思っております。

以上です。

○下水道河川局長 下水道河川局長です。

前野委員からご意見いただきました、防災・減災対策の関係で13ページにつきましてご説明させていただきます。

位置図を見ていただきたいのですが、ハード整備につきましては、白石ポンプ場、今保ポンプ場、6月に暫定供用ということで運転が可能となっております。それから、浦安11号雨水幹線の1工区として南のほうの地区の赤い線を描いておりますけども、今ここを施工中でございまして、来年度末には貯留管として供用できる予定となっております。それから、山崎排水機場につきましては、今年度から工事に着手をしているところでございます。

また、市街地を流れております旭川についてなのですが、旭川の分流施設である百間川なのですが、百間川の分岐のところですが、一の堰というところが平成30年7月豪雨前に完成しております、そこに大雨のときに分かれて流れていた関係で、街なかの浸水被害が防げたという効果が出ております。河川の整備については、旭川の中上流ダム再生事業を今国で計画中でございますが、年度末にはある一定の事業の方向性が示されるのではないかと思っております。

あと、個別避難計画の関係は、町内会とか地元の方と協力しながら、勉強会などを開きながら進めていっているところでございます。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

もうそろそろ時間が参っておりますので、最後に大森市長からご発言をお願いします。

○大森市長 いろいろとありがとうございました。私から今まで各委員の皆さん方がご指摘された点、2点、話をさせていただきたいと思います。

まず、杉山さんがおっしゃった都会に出ると戻ってこないというのは、多分みんな感じていることだと思うのですね。この前、2050年の人口がどうなるかという推計が出まして、1を超えているのは東京だけであります。中国地方の中では岡山県が一番人口的には落ちが少ない。その大半は岡山市が影響をしている。しかしながら、岡山市も今の人口70万が65万になるということになっているわけであります。

じゃあ、どうするか。誰かがちょっとやってどうにかなるものであれば、もうなっているところでもありますので、私も随分長い間、東京にいましたけど、東京の匿名性というのは楽であることは間違いない。そして、刺激も多いことも間違いない。そういう中で若者が出ていくということを止めるということは、なかなか難しいだろうと。我々がやることというのは何かというと、1つは雇用の流動性を図っていく。東京は疲れる、そういった方が岡山に戻りたい、ふるさとに戻りたい。そこでの就職をできやすくしていく。そういうことが一つ大きいのではないかと。隗より始めよということで、市のほうも特に就職の氷河期時代を受け入れたり、経済界にもそのような申出をしているところでもあります。

それから、そういった問題だけではなくて、福島さんがおっしゃったように、じゃあ子育てとか、ちゃんと対応策はできているのかということでは当然見られるわけですから、そういった子育てもきちっとやっていくということ、その中には小野さんがおっしゃったように子供の医療費も含めてであります。岡山に戻った、こういう楽しいところ、ないしは生活しやすいところがあるんだよということを常に示しながらやっていくというのが行政の役割かなと。一方では、政令指定都市の立場で私も税金で東京より地方部のほうを事業承継しやすくしていくというのは私は必要だと思うのですが、東京都の力は非常に強い。そういうことはさせない。そういう力学になっているので、ずっと言い続けるしかないのですが、税の転換というのも私は大きいかなとは思っています。それが1点であります。

もう一点、山本さんのおっしゃった、市民は知らないという、広報はどうなっているんだという話、これもよく言われるのですね。だけど、私は市長をやって10年を超えました

けど、3期目まで岡山の街を歩いていても市長と認識している人はそんなにいなかった。西田さんはずっとお付き合いさせていただいているので、よく分かるのですけれども、やっぱり3期目になってくると、市長と認識される。だから、少し何かが広報したからといって、すぐ市民の人に分かってもらうということは難しい。だからといってしないというわけじゃなくて、うちの広報担当はいろんな形でやっているところでもあります。

そういうことをやりながら、例えばハレまち通りの1車線化、あれもなかなかそんなに皆さんいいという方はほとんどいなかったのですが、やってみると、だんだんと周りに店もできてきて人もにぎわっていく。こういうことでやっていくしかないかなと。もし広報の話があれば、ここにいる皆さんに広報していただく。我々と一緒になって市をよくしているメンバーが、みんなが広報していくしかないかなと思っているところでもあります。今順風満帆にしているかのように言っておりますけれども、課題はおっしゃるように多くて、それらを一つ一つ踏まえて、毎年度、ステップバイステップでやっていくしかないかなと思っているのが現状であります。

○阿部会長 ありがとうございます。

非常に活発なご議論をいただきまして、ありがとうございます。これを踏まえて市政のさらなるスピードアップに取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、時間も参っておりますので、事務局のほうに進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございました。

事務局からも特にございませんので、これで本日の令和5年度岡山市基本政策審議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。